

2012年度のCIM試行設計業務11件

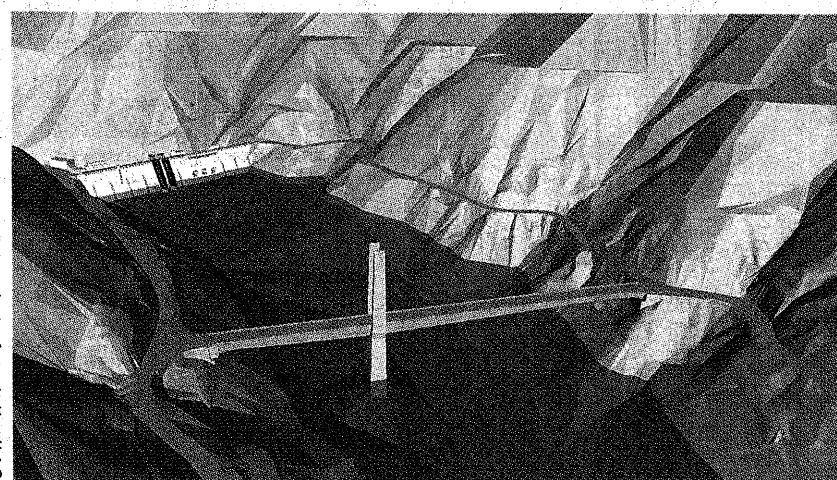
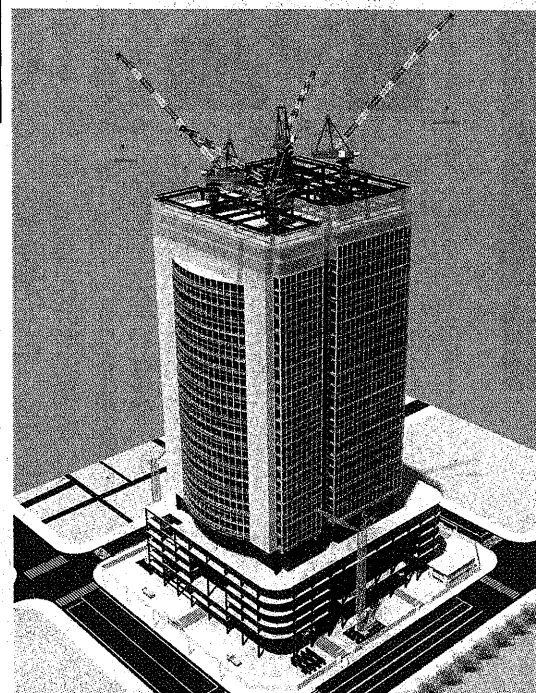
事業名	業務名	担当事務所	CIM対象業務	委託企業
国道40号天塩防災	一般国道40号 天塩町 天塩防災道路詳細設計業務	北海道開発局・羽幌道路事務所	道路詳細設計長さ1.3km	パシフィックコンサルタンツ
三陸沿岸道路釜石山田道路	小佐野高架橋橋梁詳細設計業務	東北整備局・南三陸国道事務所	Dランプ橋長さ約120m	日本工営
八王子南バイパス	24F八王子南バイパス(1工区)構造検討他	関東整備局・相武国道事務所	調整池	中央復建コンサルタンツ
首都圏中央連絡自動車道横浜環状南線	H23IC・JCT本線第一橋梁詳細設計業務	関東整備局・横浜国道事務所	橋梁下部工	八千代エンジニアリング
中部横断自動車道	H24中部横断道入之沢川橋詳細設計	関東整備局・甲府河川国道事務所	橋脚1基	大日本コンサルタント
能越自動車道(七尾水見道路)	能越自動車道中波2号跨道橋詳細修正設計他業務	北陸整備局・富山河川国道事務所	PC方枚ラーメン橋1橋、長さ73m	パシフィックコンサルタンツ
国道155号豊田南バイパス	H24 155号豊田南BP横山地区道路詳細設計業務	中部整備局・名四国道事務所	道路詳細設計0.1km、箱型函渠1カ所	オリエンタルコンサルタンツ
国道161号青柳北交差点改良事業	国道161号安曇川地区橋梁修正設計業務	近畿整備局・滋賀国道事務所	ポータルラーメン橋修正設計長さ14.6m	大日本コンサルタント
安芸バイパス	H24安芸バイパス八本松IC橋詳細設計業務	中国整備局・広島国道事務所	鋼単純合成板桁橋1橋、長さ38m、橋第2基	新日本技研
四国横断自動車道(阿南〜徳島東)	平成24年度 立江橋洲軟弱地盤対策検討業務	四国整備局・徳島河川国道事務所	軟弱地盤の盛土管理	エイト日本技術開発
飯塚庄内田川バイパス事業	福岡201号筑豊鳥尾トンネル(下り線)詳細設計業務	九州整備局・北九州国道事務所	トンネル詳細設計長さ1.5km	千代田コンサルタント

BIMからCIMへ

建設業界の大きなうねり

BIMからCIMへ……。2011年11月、国土交通省の佐藤直良技監(現事務次官)が、ある学会のシンポジウムで講演した内容に、会場内に衝撃が走った。現役国交省幹部が、建設生産システムの改革に向けて、広義の概念「CIM」(Computer Integrated Manufacturing)を掲げ、建築・土木共通の枠組みで取り組む方針を打ち出したのだ。建築も

土木も、構造物の3次元モデルに属性情報を内包し、設計から施工、維持管理へ受け渡せば、全体最適につながることに変わった。現役国交省幹部が、建設生産システムの改革に向けて、広義の概念「CIM」(Computer Integrated Manufacturing)を掲げ、建築・土木共通の枠組みで取り組む方針を打ち出したのだ。建築も



計業務11件が発注された。国交省はその後、3Dに時間軸を加えたBIMの「4D」検討に加え、コスト軸、環境軸、安全軸を加えた「7D」マネジメントなどの構想を膨らませ、試行件数を拡大する方針も示している。CIMはもはや建設業界の大きなうねりとなっている。

官民を積極バックアップ

こうした状況の中、ことし4月9日、東京都千代田区永田町の憲政記念館で、ある財団の公益法人設立記念講演会・懇親会が開かれ、菅義偉内閣官房長官や太田昭宏国土交通大臣を始めとする閣僚、省庁・建設業関係者ら約300人を集めた。BIM/CIMの普及推進に向けた

は4月下旬、国交省幹部を訪問し、BIM/CIM推進の課題として、「モデルの統合化ができていない」「要素(部材)の情報を持てていない」「モデル作成に時間がかかる」の3点を提起。いずれについても、世界標準であるIFC(*)の適正な活用による解決を求めた。こうした官民の橋渡し役として、今後もCIM普及に向けた同財団の動向が注目される。

トータル・システム・テクノロジー/GSA

一方、急速に普及するCIMに対して、多くの設計事務所、建設コンサルタント、ゼネコンは十分な体制を整えておらず、多くの課題を前に支援を必要としている状況にある。ことし3月にエイ・ユーエヌから社名変更したトータル・システム・テクノロジー(TST、本社・東京都新宿区、長尾良幸社長)は、建築、土木の両方のシステムコンサルティングを展開している。長尾社長は、「土木のCIMが大きく動いており、BIMも後押しされているため、いずれも全力でサポートしていきたい」と意気込む。目指すのは「7D」の普及だ。BIMも土木のCIMも、最終的には維持管理を目的としており、属性情報を内包したデータの流通が不可欠となる。ただ、多様なツールが使われているため、スムーズなデータ流通には、「ベンダー色のない企業の支援

(*) IFC (Industry Foundation Classes) : 建設業界のソフト間で、データを共有するためのデータ交換フォーマット。ことし3月21日に国際標準ISO16739になった。国際的な非営利組織IAI (現buildingSMART) が開発した。

「7D」の普及だ。BIMも土木のCIMも、最終的には維持管理を目的としており、属性情報を内包したデータの流通が不可欠となる。ただ、多様なツールが使われているため、スムーズなデータ流通には、「ベンダー色のない企業の支援

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海事 |
| 16. 建設工業 | | |

平成25年5月30日(朝)・夕) P 8